

会議の要旨（議事録）

会議の名称	第1回 鳥栖市人権擁護審議会		
開催日時	令和3年6月30日(水) 13:30～14:30	開催場所	2階第2会議室
出席者数	委員 11人 事務局 4人	傍聴人数	0人
議題	(1) 新型コロナウイルス感染症に関する人権への配慮について (2) 同和問題啓発強調月間(8月)の取組みについて (3) その他		
配布資料	(1) 鳥栖市人権擁護審議会次第 【資料1】 (2) 鳥栖市人権擁護審議会委員名簿 【資料2】 (3) 新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別を防止するための規定、 「ストップ!コロナ差別」(佐賀県啓発チラシ) 【資料3】 (4) 令和3年度同和問題啓発強調月間(8月)における啓発行事・広報活動 について 【資料4】 (5) 「不安を差別につなげちゃいけない」 (法務省・全国人権擁護委員連合会リーフレット) 【資料5】 (6) 鳥栖市同和問題講演会チラシ 【資料6】		
所管課	(課名) 地域福祉課 (電話番号) 85-3553		

第1回鳥栖市人権擁護審議会議事録

1 開会 事務局（地域福祉課長）

2 委嘱状の交付 委員の交代に伴い、2人に交付

居石晋弥 委員（鳥栖地区小中学校 PTA 連合会副会長）

林 俊子 委員（鳥栖市副市長）

委員については【資料2】参照

3 議 題

(1) 新型コロナウイルス感染症に関する人権への配慮について

事務局より説明【資料3】【資料5】参照

〈意見等〉

会 長	○委員の皆様から身近で起こったり聞いたりした事例等をご紹介いただきたい。
委 員	○県立学校でのクラスターによる誹謗中傷、差別があり、学校へ指導、支援をお願いした。小中学校ではクラスターはでなかったが、感染者、濃厚接触者で自宅待機がでた。子どもたちが、2週間経ち最初のスタートを切る時を非常に心配した。
委 員	○学校に復帰する時にいじめにならないような配慮を繰り返しお願いした。最近になって、水面下で SNS など保護者同士で情報のやり取りがすごかったと聞いた。一步間違えばいじめにつながりかねない噂話が保護者間の SNS でやり取りされている現状があることを知った。保護者の方にも啓発していく努力が必要。
委 員	○昨年度生徒に陽性が出たときは、水面下で誰々ではないのかという情報が飛び交い、該当の生徒と保護者に相談をすると、自分たち以外の方が疑われたり、いじめにあったりするのには耐えきれない、名前を出してもらって結構とのことで、名前を公表。生徒には、何でそう判断されたのか話をした。特定をしないように、いつ誰がかかってもおかしくないということを生徒たちに指導。ご家庭でも指導をお願いし、保護者の方も特定しないでくださいとお願いをしている。
委 員	○昨年からの反省でまず思うのは、陽性者が出た場合、まずオープンにしようと思う。小中学校で起きた場合は、地域の方全体に報告はしないが、保護者には全部、感染者がでました、検査をします、だから学級閉鎖もしますとオープンにすることが一番ではないか。
委 員	○一年前、職員が新型コロナウイルスに感染し公表した際、電話が鳴りっぱなしで、その対応に2日間くらい追われた。感染した職員を誹謗中傷するというよりも、自分の身を案じた問い合わせだった。 その後、「当時、応募先の事業所から、ハローワーク鳥栖で紹介を受けた方は会社に来ないでほしいと言われた、差別にあたるのか」という問い合わせがあった。新型コロナウイルス感染症に対する正しい認識を一人ひとりがわからないといけない。偏見、憶測に基づいた過剰反応というのは、差別につながる恐れがあると思っている。
委 員	○先日、業者の方が、家に見えたが、家を2つ持っている。福岡に子どもと奥さんと暮らして、自分はこっちに暮らしていて、子どもと全く会っていない。かわいそうだと思ったが、これも感染予防なのか、過剰な予防なのか。今は、コロナ離婚だとか色々あっているので心配になった。
委 員	○佐賀の勸興校区ではシトラスリボンプロジェクト、思いやりの輪をひろげようという活動に取り組んでいる。たとえウイルスに感染しても、「ただいま」「おかえり」「ありがとう」と言われるまちにしたいと始まったシトラスリボン運動、愛

委員	媛県の有志の方から始まり全国に広がっている。シトラスリボンを通じて、思いやり、やっぱり差別はいけないよという気持ちを新たにしていきたいと思った。
委員	○住んでいる地区でも感染者がでたが、皆さん、うわさだけで、嫌がらせはなく、今は、もう普通に生活されている。どこで感染したかわからないと本人は言う。すぐ大変だったと思うが、地区のお宮掃除でも、皆に迷惑がかかるからと、前日に半分掃除されたりしていた。
委員	○親のSNSと同時に、子どももSNSに情報が入る、親以上に子どもは情報が早い。正しい情報をいかに伝えるかが大事と思う。 私は障害者と仕事をしているが、障害者の方で、ワクチン接種をしないし、したくないって人がかなりいる。精神障害者だから打たない、といった社会的偏見が出てくるのではないかと心配をしている。コロナと当分つき合っていくので、過剰反応せずにやっていくことが大事と思う。
委員	○企業での人権研修、地域での人権研修会の際は、思い込みとか、偏見とかからコロナの差別が発生する、女性への偏見などの人権侵害というものも、そういった思い込みとか偏見からというお話をします。 7月は青少年の非行・被害防止強調月間で、街頭キャンペーンを毎年行っている。今年はコロナ差別について、大人が気づいてくださいね、というようなものにする。社会教育の面からも、今、取り組んでいるところ。
委員	○皆さん、不安に駆られて、悪気なく、SNSでいろんな情報を拡散させてしまう。SNSでの情報発信を簡単に止めることはできないとは思いますが、努めて冷静にしないといけないことを周りも、幾度となく意識合わせをしていくことは大事だ。 ワクチン接種にあたり、ワクチンの効果の周知と併せて、ワクチン接種は義務ではなく、個人の判断だとお伝えしていかないといけない。皆さんが正しい判断をしていただく材料を出していきたい。
事務局	●意見ありがとうございました。今後の啓発の参考とさせていただきます。

(2) 同和問題啓発強調月間（8月）の取組みについて
事務局より説明【資料4】【資料6】参照
〈質疑応答〉

会長	○ご意見、ご質問があればお願いします。
委員	○この講演会は、参加するときは事前の申込みは必要か。
事務局	●事前申込みは必要ないが、当日受付の前に参加者カードにお名前と連絡先を記入し、座席指定をする。もしコロナ感染者が出たときは周りの方が追えるような形をとっている。
委員	○終了時間は何時か。
事務局	●15時くらいを目途。講演時間が90分程度、前後の挨拶も含め15時20分には終了予定。

(3) その他

人権擁護審議会は、鳥栖市の人権擁護について調査研究をしていただくことになっているため、必要に応じて審議会を開催させていただく。
次回の審議内容、開催時期ともに事務局一任とする。